



埼玉地本、所沢北野小学校で南極観測協力を広報

埼玉地方協力本部（本部長 山下1空佐）は、3月11日（水）、所沢北野小学校において、海上自衛隊の南極観測協力行動について、総合的な学習の時間への協力の一環として広報活動を行った。この活動は埼玉地本のツイッターで「南極の氷を使った総合的な学習の時間」を希望する学校を募るという企画から実現の運びに至ったもので、埼玉地本としては、令和2年度5度目、小学校に直接赴いて授業をする形式としては初めての実施となった。

これに同地本広報室長（当時）松尾1海尉が小学校6年生2クラスに2回に分けて出張授業を実施。日本の南極探検の歴史から、砕氷艦「しらせ」が行っている南極観測隊に対する支援について説明を行うと共に、南極の氷を展示。児童たちは実際に氷に触れて太古の氷を体感した。

授業を受けた児童たちは、南極や艦内での生活のあれこれに興味津々、熱心に授業に聞き入ると共に、ペンギンやオーロラをはじめ様々な質問が飛び交った。また、氷の体験では、「弾ける感触が楽しい。」「本当に音がする。」などと大喜び。総合的な学習として、教科に囚われない多角的な授業となった。

授業を終えた松尾1尉は、「総合的な学習の時間への協力は、学校教育の中で自衛隊の活動を紹介する絶好の機会。中でも、南極観測協力については、文科省との省庁間協力で学校教育との親和性が非常に高いため、今年度培った手法を来年度も更に発展させていきたい。」と語り、手応えを感じていた様子であった。



小学校卒業生の希望を乗せた風船が百里基地へ —埼玉地本が基地と小学校の思いをつなぐ—

埼玉地方協力本部（本部長 山下1空佐）は、令和3年4月22日（木）に川口市立芝南小学校を訪問した。

事の顛末は、令和3年3月24日、同小学校の令和2年度卒業生104名と保護者の皆さんが卒業記念として大空へ300個もの風船を飛ばしたことから始まる。これは、コロナ禍で様々な活動が制限された生徒達に心に残る企画をしたい、という保護者の会の発案で実現したもの。当日は晴天に恵まれ色とりどりの風船が青空高く飛んでいき、その中の一つが100kmほど離れた航空自衛隊百里基地へ到達した。風船に結ばれた学校名とお知らせを読んだ百里基地隊員は大変感銘を受け、その感銘の気持ちを形にして卒業生に送りたいと思に至った。

しかし、現在の感染状況を踏まえると直接伺うことは断念せねばならず、埼玉地方協力本部にその代役を託すことになったのである。百里基地から連絡を受けた校長先生は、小学校に自衛隊から電話を受けるとは何事だろうか、と思ったところであったが、後日受け取った自衛隊から記念品を前に感動した様子で、「風船が百里基地に到達したことを卒業生も保護者も感激していました。記念品はこれから送る予定の卒業アルバムと共に卒業生104名に郵送します。災害派遣以外の場面で自衛隊を身近に感じることができました。このご縁に感謝します。」と語った。代理として伺った埼玉地方協力本部の隊員も「心温まる出来事に携われたことを光栄に感じた」と語り、今後部隊と地域との懸け橋となっていきたいとしている。

